

2011年9月29日
電子出版制作・流通協議会 事務局

電流協 月例セミナー（9月）報告

「電子出版市場概況 -電子書籍ビジネス調査報告書 2011 から-」

講師 高木利弘

【開催概要】

・インプレスR&Dにおいて「電子書籍ビジネス調査報告書」をまとめて、日本の電子出版市場推計を第一線で行ってきた高木様から、実際に売れたものなどからみる電子出版の市場動向の変化や、アメリカでの最新の市場動向発表等の興味深い発表を、の変化やこれからの市場成長の鍵をお話いただいた。

【日時】9月28日（水）13時30分～15時

【場所】スター研修センター神田（401号）

場所：東京都千代田区神田美土代町3-2 神田アベビル

<http://kanda-kc.net/access/index.shtml>

【参加費】無料（電流協会員限定）

【運営体制】電流協事務局

【講演者】高木利弘（たかぎ としひろ）

株式会社クリエイション代表取締役

株式会社インプレス R&D インターネットメディア総合研究所客員研究員

【参加者】出席者数 65名（エントリー数 100名）

セミナー会場の様子



【配布物】

・「電子書籍ビジネス調査報告書 2011 から」（プレゼンのサマリ）

【発表のキーポイント】（詳しい報告は、別途 NewsLetter で発表予定）

・昨年までの電子出版市場は、第三代携帯電話（いわゆるガラケー）プラットフォームにおける、B L系コミックなどが牽引してきており、コミック系コンテンツが 86%を占めていることから、「書籍」が汎用的に読まれてきたわけではない。

・2010 年は、スマートフォン、タブレットPC などPC と携帯電話以外の新プラットフォームが普及し、そこで購入されている分野は文芸や実用書。しかし販売実績はまだ 14 億円と小さい。

・来年は、iPhone がSBM 以外からも発売される予定で、Android,Windows モバイルなども新機種を発表することで「新プラットフォーム」は充実してくると思われる。

・アマゾンが電子書籍市場の拡大を目指して、一部の電子書籍販売では逆ザヤで販売してきた。また、アマゾンがキンドルで行った「電子書籍販売」は、ユーザにとって大変わかりやすい方法であった。



- ・日本で電子出版市場を拡大させるためには以下のような点が鍵
 - ・ユーザーにストレスなく電子出版を買ってもらえるような環境を提供すること
 - ・新刊や話題となったコンテンツを出すスピード感とタイミング
 - ・コンテンツ数の充実
 - ・買いやすい環境の整備
 - ・上手な DRM のかけかた
- などの検討が必要だと思われる。

【米国の電子出版市場の動向】

・米国の電子出版市場はこれまで、米国出版社協会(AAP)が発表する「一般商業書籍の卸出荷額」をもとに約 600 億程度とみつもられてきたが、この度発表された、BookStats は、調査対象を 14 社から約 2000 社（今回 1963 社）にまで拡大し、同時に市場の 3 次元モデル（上の図を参照）に従い、過去 3 年にさかのぼって可能な限り正確なデータで埋めている。

2010年の卸販売額（つまり出版社の手取り額）は、3.1%伸びて279億ドル。一般商業図書の卸販売額は139.4億ドルで、うち電子書籍の売上が8億7800万ドル、構成比は2008年の0.5%から6.4%(13倍)と急伸したと発表した。

BookStatsにみる2010年の米国E-Book販売額

一般商業図書	E-Book	総額
BookStats	8億7,800万ドル	139.4億ドル
(AAP)	4億4,130万ドル	116.7億ドル)
その他図書	E-Book	総額
計	7.42億ドル	140億ドル
児童・教育図書		55.1億ドル
高等教育書		45.5億ドル
専門書		37.5億ドル
学術書		1.91億ドル

この集計データから言えることは

電子出版の普及は、従来の出版市場に影響をあたえておらず、合計してみるなら出版市場の拡大に寄与していると言える。

よって、日本においても、出版市場全体の拡大を念頭に電子出版に意欲的に取り組むことが必要であると思われる。

以上